



センター外観

放送大学  
埼玉学習センターだより

さき たま

2019年春号(通巻43号)

Contents

1. 目次
2. 着任挨拶
4. 退任挨拶
6. 生涯学習奨励賞  
入学者の集い
7. 大学からのお知らせ



# 着任のご挨拶

4月より渋谷治美先生の後任として埼玉学習センター所長に就任いたしました堀尾健一郎と申します。右も左もよくわからない状況から始まりましたが、微力ながら精一杯任務を努めたいと考えております。

最初の機会でもありますので、簡単に自己紹介させていただきます。生まれたときは兵庫県尼崎市に住んでおりました。卒業した小学校は神戸市東灘区にありました。しかしながら、中学1年の夏休みに東京に転居し、それ以来東京、神奈川、埼玉と転々とし現在は都内から通勤しております。

大学院学生時代(東京大学工学部精密機械工学科)にはワイヤ放電加工に関する研究を行い、学位を取得しました。放電加工とは、狭い隙間において極めて小さな放電(雷のような)を人為的に発生させ、そのエネルギーで材料を少しずつ溶かしながら除去していく加工で、材料の硬さに関係なく加工できるという特徴があります。大学院修了後には株式会社日立製作所に入社し、最初の5か月間は洗濯機を製造している事業所のモーター製造職場での現場実習を体験しました。その後、社内研究所で電子ビーム穴あけ加工の研究に従事しました。電子ビームというのはレーザーのように高いエネルギーをもつエネルギー源で、金属やセラミックスなどの硬い材料に1秒間に100個以上の穴をあけることが可能な技術です。その技術を大型コンピュータ用部品の電子基板穴あけに適用するための研究開発に従事しましたが、残念ながら実用には至りませんでした。もっとも実用化されていれば会社を辞めることができなくて、ここでこの原稿を書くことにもならなかったと思います。

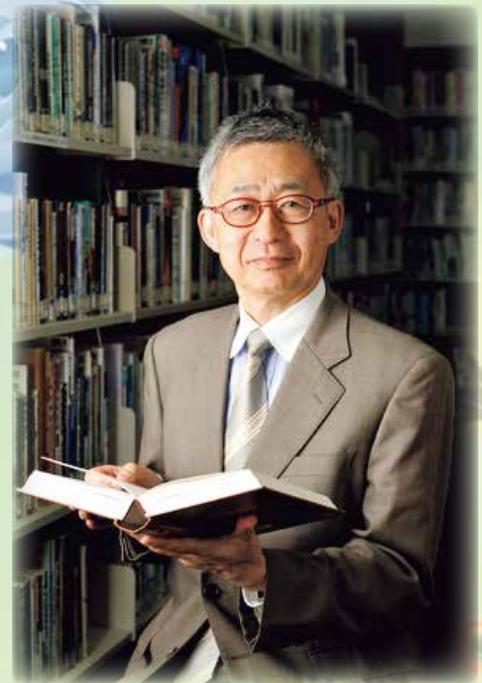
その後30年余り埼玉大学工学部機械工学科で、ものづくり、特に加工技術に関する研究と教育に従事しておりました。埼大時代の研究は、超精密切削といってダイヤモンドを切れ刃として切削する技術(コンタクトレンズの製造に使われています)や、こすって磨く研磨加工の研究などを主として行いました。ダイヤモンドを磨いて鏡面(ピカピカの面)にする研究も行いました。ダイヤモンド「で」加工する技術と、ダイヤモンド「を」加工する技術の双方を行ったということになります。

埼大では教育・研究以外に産学官連携推進部門長という役職を2年間務めました。埼玉県、さいたま市、経済団体、県内金融機関、などと産学連携関係のイベントを催したり、県内企業からの技術相談の窓口などを務めました。適当な受け入れ教員がない共同研究テーマについては、専門外であっても自身で引き受けた経験もあります。県内中堅・中小企業との共同研究も10件くらい行いました。

埼大でのその他の業務として、教育企画室長という役職を3年間務めました。基盤教育(教養教育)の設計をしたり、全学的な教育課題への対応、などにあたりました。学生の皆様の利便性を考えてゴールデンウィークの休講化に踏み切りました。

以上のようなこれまでの筆者の経験を、放送大学での業務にいかに関与させることができるかは今後の課題と思っています。

学習センターの役割は、学生の皆様の“勉学のサポートをする”ことに尽きると考えます。そのことを肝に銘じながら職務に務めてまいりたいと思います。どうかよろしく願いいたします。



堀尾 健一郎

# 客員教員より着任のご挨拶

2019年度第1学期より、2名の先生が新たに埼玉学習センターの客員教員としてご着任されました。

## メッセージ

井上 直也(いのうえ なおや)

今年から放送大学大宮学習センターでご一緒させていただき、井上です。どうぞよろしくお願いいたします。専門は大きく括れば宇宙物理学。具体的には宇宙からやってくる高エネルギー粒子の研究を行っています。かれこれこの仕事も40年になりましょうか。この研究に入り込むきっかけは偶然で、その好奇心を一直線に育ててくれたのも、海外僻地での予期せぬ研究だったと思います。人との出会いや希少な環境での生活は多くの刺激をもたらし、それらは決してその後の自分に無駄ではありません。具体的な言葉で説明していないのはずいですが、「宇宙線」「放射線」「ボリビア」「標高5200m」「インカの文化」「シベリア」「北イタリア」「都響」「浦和宿」などなど私を形成する幾多の経験を表す言葉です。皆さんは既に多くの刺激をいろいろな場面から受けてきていることと思います。記憶からさっと消え去るものもありますが、それ以上に多くのことを受け止めることができる、そんな刺激的な生活を歩んでいってください。「学ぶこと」は「出くわすこと」。それを楽しむためには能動的に動くことが大切です。この際、やっぱり「ボーッと生きてはいけない」とすべての皆さんに申し上げておきたいと思います。私は一つの価値観で詰め寄られると弱いのので、広い視点でいろいろお話しできればうれしく思います。楽しい学生生活を過ごしていきましょう。



## ご挨拶とメッセージ

大橋 容一郎(おおはし よういちろう)

はじめまして。今年度から新しく客員教員になりました大橋容一郎です。専門は哲学と思想史です。近現代の西洋哲学や日本思想を扱いながら、特に「認識」つまり「知る」ということについて長年考えてきました。人間ならだれでも「知る」ことはできそうですが、たとえば「見える」や「触れる」がどういことなのかを説明できる人は、けっして多くはありません。

また、「知るscius」ということばは、今ではそのまま「科学science」ともなりました。そのため、自然科学・社会科学・人文科学の基礎論と言われる諸問題も研究範囲に含まれます。今年あちこちの大学で講義する予定なのは、「認識論」「カント哲学」「情報の哲学」「グローバリゼーション」「ケアの哲学」「身体知論」「近世哲学史」などで、一見ただけではどこに共通点があるのか、自分でもわからないほどです。当初はこれほど手広い問題を扱うことになるとは思わず、どんどん増殖していく領域に手を焼いています。

こんなことを考えてきたので、私はこれまでに『広辞苑』など、たくさんの辞典編纂に携わることになりました。一つ一つの概念をどのように見なして決めていくかは、長い目で見れば文化の基礎を方向付ける仕事になります。文化としての知識の基礎付けにかかわる地道な仕事が、「哲学」のひとつの大事な役割ではないかと思っています。こうした領域に関心をお持ちの皆様とともに、ゆっくり学んでいくことができれば幸いです。



# 退任のご挨拶

## 退任のご挨拶と恩師二人

前所長 渋谷 治美

埼玉学習センターに所属の学生の皆さま、同窓会の皆さまに、一言退任にあたってのご挨拶を申し上げます。



私は2015年4月からこの2019年3月までの丸四年間、放送大学特任教授として埼玉学習センター所長を務めて参りました。恙なく任を全うして、このたび堀尾新所長に無事バトンタッチできましたのも、この間の学生と同窓会の皆さまのご厚情、ご支援の賜物であります。心から御礼を申し上げます。

昨年末からこの3月までのあいだ機会あるごとに申し上げたのですが、私の70年の全人生のなかで、この四年間が最も充実し、楽しさを実感した時期でした。自分の幼年時代、小中高校時代、大学時代、院生時代、助手時代、S大学での教員時代・中間管理職時代などと比較して、最も自分の羽を伸ばすことができた期間だったと思います。

それを一言でいい表しますと、「企て」「図りごと」を思う存分提案することが許されたうえ、たいがいの場合それを成功裡に実現することができたからです。その仕上げが、昨年末の学生との一週間強のドイツ研修旅行と、今年1月～3月の四回に亘る「所長室で談話—人生を傾聴する」シリーズでした。通常、人類の企ては十中八九(それどころか千中九百九十九に)失敗してきたのが実情ですから、私にとって如何に埼玉学習センター時代が夢のような四年間であったか、皆さまにも想像して頂けると思います。

皆さまへの感謝の言葉はこのぐらいとしまして、「感謝」という言葉から連想して、この機会に、70歳を迎えたいま、特に感謝すべき「恩師」にどのような方々がいらしたか、を振り返ってみます。

まさきに鮮明に思い出すのは、中学の1年と3年のときに「国語」を担当して下さった朝井先生です。あいだの1年間、他の先生に国語を教わったあと、中3に進級した頃の頃、朝井先生に面と向かって、「渋谷は国語の力が落ちたなあ」といわれたことを忘れません。以来、先生に二度とそのようにいわれないよう、(国語に限らず)努力してきたつもりです。(いま思えばあの言葉は、多分に〈他の先生〉への批判だったのかもしれない(笑)。)

高校になって高2のとき、当時の「倫理社会」(いまの「倫理」)を担当して下さった太鼓矢先生も忘れられない恩人です。倫理社会は私を含めて誰にとっても大学の受験科目でないので、教室のなかで真面目に先生の話の聞いているのは、私のほかにあと1、2人しかいませんでした。それにもめげず毎時間先生は、前の夜徹夜でガリ切りしたのち謄写版印刷したB4のわら半紙1枚の資料を配布し、熱意を籠めて授業をして下さいました。中身はソクラテスから近代までの哲学史でしたが、1時間一人の哲学者の〈読み切り授業〉でした。その先生があるとき、「それまでの哲学はすべてこの哲学者に流れ込み、それ以降の哲学はすべてこの哲学者から流れでたのです」と前置きして、話してくれたのがカントでした(しかも例外的にカントだけは2週続けて)。何と、このときの太鼓矢先生の一言が、今日に至る私の人生を決定づけたのでした。——若き日の思い出の一端を記しました。

では皆さま、共に人生の涯まで〈学道楽〉を貫きましょう。

2018年 ドイツ旅行



2017年 学生研修旅行



2015年 サロンしぶや



# 客員教員より 退任のご挨拶

2018年度末で、4名の客員教員がご退任されました。



## “サロン”の楽しみ

安藤 陽

埼玉学習センター独自の取り組みとして“サロン”があります。客員教員は、面接授業とは別に、単発的に専門に関わるテーマで話をする事ができます。私の場合、海外調査で撮りためた写真を使って年に1~2回開かせていただきました。



ヨーロッパや東南アジアの公共交通(鉄道・地下鉄・トラムなど)について、仕事や旅行で行かれたことのある学生さんも参加されて、楽しく話ができ、話を聞くことができました。東日本大震災での石油緊急輸送を話題にした時には、輸送プランに関与した学生さんがおられて、冷や汗をかいたことを思い出します。それもまた“サロン”の楽しみと言えましょう。これからも楽しい“サロン”が続きますよう祈っております。



## 学ばれる皆さんへ

永澤 明

初夏を迎え、植物は日光を浴び水を吸って光合成し枝を広げ、草原では動物が食物を探し歩きながら成長する。修学とはそんな自律的なものでありたいと思います。放送大学は、多様な先生方からいろいろな経験や知識を受け取り、自由に自分の個性をつくる事ができる場です。専門については深く、さらに素養としては広く学ばれることをお勧めします。私の専門の自然科学が教えることは、宇宙は「多様」で「個性的」で、それが常に変化していることです。その原動力は「相互作用」で、互いに何かを「交換 exchange」するか、「共有 share」することによるネットワークの形成です。恋人や友人間のメールや電話や手紙の交換や会話、夫婦間での子供たちや家や財産や価値観の共有が、強い繋がりを生むのです。皆さんは一人で学んでいるではありません。多くの仲間や先生方とよい繋がりを持って、個性的な自分を形成する夢に向かって歩んでいきましょう。



## 「まなぶことのたのしみ」

吉川 好昭

5年間お世話になりました。客員教授として在職中に感じていたことは、月並みな印象で申し訳ありませんが、「まなぶことのたのしみ」です。今の若者は、単位を落とさずに、留年せずに卒業して、希望する企業に就職することを最優先しているため、残念ながら彼らからは「まなぶことのたのしみ」はあまり感じられません。その点、放送大学では、学生の高い学習意欲とともに「まなぶことのたのしみ」に圧倒される日々でした。私自身、これから何を目標として生きていくのか明確にはなっていませんが、一日も早く、「まなぶことのたのしみ」を追究したいと考えています。今後、放送大学のますますのご発展を祈念してお礼の言葉とします。



## 退任のご挨拶

半本 秀博

授業、サロン、講演会などで皆様にお世話になりました。

ただ、ただ、感謝です。面接授業は、進化、発生、遺伝子発現から見たヒトの体について、実験・観察と授業のコラボで実施しました。

毎年授業刷新したつもりですが、中身の充実度は受講された方々の熱心さで補われた賜物です。実験観察を中心としたのは、学生時代“Study nature, not books”をたたきこまれたからかもしれません。どんな解説モデルも、現象あつてのこととの感覚が、書籍や文献で学ぶ場合も大切な意と理解しています。サロン、講演会などでも、皆様から勉強させていただきました。なお、面接授業は今年度まで実施しますので、ご参加ください。



# 生涯学習奨励賞

2019年3月24日(日)、2018年度第2学期の生涯学習奨励賞が行われました。

埼玉学習センターでは、複数の専攻・コースを卒業された方を表彰する「生涯学習奨励賞」の制度を設けています。平成30年度第2学期卒業生から23名の皆様が表彰されました。受賞された皆様、誠にありがとうございます。

今回、金剛賞を受賞された熊井純子様からコメントをお寄せいただきました。

金剛賞 熊井 純子様  
 金賞 川崎 孝様  
 内藤 邦夫様  
 馬場 輝夫様  
 銀賞 大宮 勲様  
 山崎 武昭様  
 銅賞 稲原 豊治様  
 北村 秀明様  
 小池 光義様  
 島辺 百合子様  
 畑中 博様

榎原 敏子様  
 長谷部 隆夫様  
 渡辺 秀様  
 長谷川 晶一様  
 吉富 進様  
 岡田 哲夫様  
 小池 健祐様  
 佐々木 芳子様  
 制野 紀子様  
 滝瀬 千江様  
 丸山 喜美子様  
 森田 良哉様



(五十音順)

## 放送大学27年間を振り返って

思い起こせば私は、子育てと看護師の仕事とを両立させながら働き続けてきました。病院勤務を通じて感じた患者さんの「おおい」や、92歳の義母を在宅で介護したときに、第二の人生は、放送大学で学び、地域でボランティア活動をしたという気持ちが強くなり、55歳で退職し、平成4年の春、放送大学に全科履修生として入学いたしました。

はじめはわからなくて、興味のある科目を欲張って選択して息切れを感じたこと。家で印刷教材に頼った勉強だけで、学習が進まなかったこと。試験勉強は苦しかったが終わった後の解放感は、平凡な日々には味わえない達成感が得られたこと。特に苦労したことは、一番苦手な外国語の単位取得です。英語Ⅱの面接授業で、「いっさい日本語で話さないこと」には教室が騒然とし、逃げ出したい気持ちになりましたが、「これではいけない、初心に戻れ」と自分を叱咤し、仲間に助けられ、乗り越えることができました。このことは、私にとって貴重な経験であり、宝物となりました。何事も諦めなければ何とかできることを実感し、学習が楽になりました。

また、仲間づくりには、「ソーシャルダンスクラブ」に入会し、多くの人たちとふれあい、楽しい時間を過ごしました。地域のボランティア活動は、放送大学へ入学と同時に市社会福祉協議会に登録し、「家庭看護グループ」に入会しました。介護保険が導入されるまで、市内の高齢者のケアを行って来ました。

平成7年に民生委員に委嘱され、20年4月からは私の住む町会に、地区社会福祉協議会が発足し、その責任者として地域のパイ役を担うようになりました。その際は、放送大学で学んだ知識を生かして、地域の絆を強く、安心して支えあえる町会を目指していました。

学生生活27年で5つの専攻・コース(生活と福祉、人間の探求、発達と教育、社会と産業、自然と環境)を学び、今年3月に卒業、放送大学名誉学生とし学長表彰を受け、最高の喜びと共にお世話になりました多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

放送大学では深い知識を学びました。知識は学べば学ぶほど、もっと新たなことを知りたくなります。その時ふと、生涯学習の重要性を教えている、佐藤一斎の書物・言志晩録の一説にある「おいて学べば 死して朽ちず」を思い出しました。しかし目的を達成するには、家族の協力と健康あってのことであり、焦らず、力まず、無理せず、諦めずに、選科履修生として学ぶことにしました。

## 自然と環境コース 熊井 純子

## 2019年度 第1学期

# 入学者の集い

2019年4月6日(土)に、2019年度第1学期の入学者の集いが行われ、138名の新入生が参加されました。

これから充実した学生生活を送れますよう、ぜひ学習センターをご活用ください。





# 事務室からのお知らせ



## 面接授業が変わります



### 1. 授業時間が変わります

2019年度第1学期より時間帯が変更になっています。  
 受講にあたっては、ご注意ください。  
 また、科目により終了の時刻も異なりますので、  
**必ずシラバスでご確認下さい。**

面接授業 時間割		※1
1時限目	9:50~11:20	/
2時限目	11:35~13:05	
昼休み		
3時限目	14:05~15:35	14:50
4時限目	15:50~17:20	16:35

※1 後日レポート提出がある科目の最終日最終時限の終了時刻

### 2. 成績評価の方法が変わります

- ◆ 総実授業時間 (675分) を確保するため、原則として1コマの授業時間が **85分から90分** (最後の8時限目は45分) に変更となります。
- ◆ 授業時間とは別に成績評定のための **試験・レポート等の時間が設定** されます。
- ◆ 成績評価が、放送授業、オンライン授業と同じく **①~⑤の6段階** に変更となります。

評定	評語	筆記試験の点数【目安】
①	基準を大きく超えて優秀である	100点~90点.
A	基準を超えて優秀である	89点~80点.
B	望ましい基準に達している	79点~70点.
C	単位を認める最低限の基準に達している	69点~60点.
D	単位を認める最低限の基準を下回る	59点~50点.
E	基準を大きく下回る	49点~0点.
—	3回以上の欠席	—

※D・Eは不合格。3回以上の欠席の場合は評価を行わない(「-」表記)。なお、全講義出席を前提。



## 通信指導の提出をお忘れなく!



**郵送: 2019年5月21日(火)~6月4日(火)**

※期限日までに必着です。消印有効ではありませんのでご注意ください。

**Web: 2019年5月14日(火)~6月4日(火)午後5時まで**

※最終日はインターネットが込み合います。時間に余裕をもって提出して下さい。

### 《《POINT》》

- 郵送の際には、問題ページと自習型問題ページを切り取り、手元に保管しておきましょう。後日、解答と併せて自習型問題の解答と解説も届きます。単位認定試験までの自己学習にご活用ください。
- Webから提出された場合、提出と同時に解答がわかりますが、後日改めて解答と自習型問題の解答と解説も届きます。

※未提出あるいは期日までに到着しなかった場合は、評価対象になりません。  
 その場合は単位認定試験の受験資格が得られませんのでご注意ください。

## 学生証の交付はお済みですか？

- 今学期ご入学された方
- 学生証の有効期限が切れている方

所属の学習センターにて、  
学生証の交付を受けてください。  
その際、入学許可証もしくは有効期限の  
切れている学生証をお持ちください。

写真の登録が完了していれば即日交付  
ができます。



学生証引替票  
(窓口においてあります)



入学許可証  
もしくは  
有効期限切れの学生証

2点を窓口にお出しください



## サロン・公開講演会へどうぞ



**サロン：** 客員教員によるセミナーを不定期に開催します。  
専門から身近な話題までを、わかりやすく話し、学生の皆さんが自由に質問・  
討論に参加できる、授業とはひと味ちがったひとときです。

**公開講演会：** 一般の方もご参加いただけますので、ご家族・ご友人にも是非お声がけください。  
7月13日(土) 10:30~12:30『21世紀の思想—ケアと身体の哲学—』(定員150名)  
大橋 容一郎(放送大学埼玉学習センター客員教授、上智大学教授)

9月1日(日) 10:30~12:30『歌い継ぎたい童謡・唱歌—ピアノとともに—』(定員150名)  
鈴木 さとみ(放送大学埼玉同窓会会長、ピアニスト)

※ホームページ、お電話もしくは学習センター窓口でお申し込みください。

今年も埼玉フェスタの開催が決まりました!

## 第13回 埼玉フェスタ “あなたが主役 未来に向かって”

【日程】2019年9月14日(土)および15日(日)

【会場】放送大学埼玉学習センター 8階・9階

主な企画(予定)

- ◆音楽祭(合唱・独唱、楽器演奏、ジャズコンサート等)
- ◆サークル発表(ステージ発表、展示など)
- ◆個人作品展示(絵画・写真・書・工芸作品展示等)
- ◆体験コーナー(お茶・生け花・ダンス等)
- ◆卒業研究・修士論文発表

※賛助券のご購入が必要なイベントもございます。詳細は後日HPや掲示でご確認ください。

ご家族・ご友人を  
お誘いあわせの上、  
奮ってご参加  
ください!



埼玉学習センターに関する情報は、ホームページでいち早くお知らせ  
しています。是非、ご覧ください。

放送大学 埼玉

検索

〒330-0853 さいたま市大宮区錦町682-2  
JACK大宮ビル内(受付:10階)  
TEL 048-650-2611 FAX 048-650-2615

